

第三期 中期経営計画

(令和 6(2024)年度～令和 10(2028)年度)

令和 5(2023)年 12 月

学校法人華陽学園

岐阜女子大学

目 次

はじめに	1
I. 学校法人華陽学園の概要	2
II. 本学の現況	2
III 長期ビジョン	3
IV 重点的に取り組むべき課題	4
V ビジョン等への取組	4
1. 教育ビジョン	4
2. 研究ビジョン	7
3. 貢献ビジョン	7
4. 組織・運営体制	8
5. 点検評価	9

はじめに

本学では第1期（平成26(2014)年度～平成30(2018)年度）、第2期（平成31(2019)年度～令和5(2023)年度）の中期目標・中期計画を受けて、第3期（令和6(2024)年度～令和10(2028)年度）の中期経営計画を策定し、一貫性と合理性のある法人運営を取り組んでまいります。

私立大学を取り巻く環境は、社会ニーズ、高等教育機関の果たすべき役割と人材育成像の変化、人口の減少による大学規模の在り方など、急激に変化しています。本学はこれまでも大学経営、教学とも様々な改善・改革を行ってまいりましたが、大学をめぐるこの急激な変化に対応し、更なる改革が必要と認識しております。

本学の「建学の精神と教育理念」に照らし、現在まで培ってきた教学の強みを確認し、社会ニーズや文部科学省が推進する施策との一貫性と合理性に配慮しつつ新たな取組にチャレンジしてまいります。

中期経営計画を不断に検証し、必要な場合には、計画の見直しや修正を柔軟かつ真摯に行ってまいります。

令和5（2023）年12月

岐阜女子大学学長 松川禮子

I. 学校法人華陽学園の概要

岐阜女子大学（以下「本学」という。）は、「人らしく、女らしく、あなたらしく、あなたならではの」という建学の精神に基づいて「教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す」という教育目標を掲げています。それは、慈しみの心を育み（人らしく）、きめ細やかな感性を発揮し（女らしく）、自我を確立させ（あなたらしく）、責任ある個性が発揮できる（あなたならではの）人材を養成する（教養ある職業人）という教育理念となっています。

本学は、昭和 21（1946）年開講の専門学校「華陽女子学園」を母体として、昭和 43（1968）年 4 月に家政学部家政学科のみの小規模 4 年制単科女子大学として開学しましたが、その 2 年後には、文学部英文学科及び国文学科を開講。以後、平成 31（2019）年 4 月の大学院文化創造学研究科デジタルアーカイブ専攻及び同通信教育課程を開講するまで、学部・学科・専攻・大学院研究科の新設あるいは改組転換を行いながら、常に社会の要請に応え学生数も増大させてきました。そうした状況でも、常に学生を中心とした教育を志向する教育理念を堅持してきた点が、本学の最大の特徴であり、社会に受け入れられる本学の姿勢であると自認しています。

一方、大学院は、平成 7（1995）年 4 月の設置・開講以来、共学制の修士課程とし、「広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な専門的な知識と能力とを持つ人材の育成並びに社会人の再教育」を目的としています。

II. 本学の現況

■学生数（2023.5.1 現在）

学 生	在籍者数	収容定員
大学院	64	112
生活科学研究科	0	12
文化創造研究科	10	26
文化創造研究科(通信)	54	74
大学	845	1320
家政学部	474	680
文化創造学部	371	640
総 計	909	1432

■教職員数（2023.5.1 現在）

大学教員	
教授	38
准教授	16
講師	16
助教	2
助手	6
専任職員	37
計	115

Ⅲ 長期ビジョン

1. 第Ⅰ期・第Ⅱ期の中期目標・中期計画

本学は、第1期（平成26(2014)年度～平成30(2018)年度）、第2期（平成31(2019)年度～令和5(2023)年度）の中期目標・中期計画を策定し、社会に開かれた健全で安定した学園・大学運営に努め、優秀な学生を集め、多数の有為な人材を社会に送り出すことを目標としてきた。

社会の変化は著しくデジタル化とともに世界は近くなり、社会基盤は大きく変容している。それに伴い社会が大学に求める人材養成像や、学生が求める学修内容も大きく変化している。

こうした社会変化に逞しく対応して自分らしく生き抜ける人材を養成し、社会で有為に活躍できる人材を輩出していくことが本学に課された課題であり、社会に認められ、学生に選ばれる学園となることが基本目標である。

この基本目標を実現するために必要な中期経営計画を作成するにあたっては、令和3年度大学機関別認証評価の評価結果を踏まえつつ、現状を見据えて設定する。

2. 第Ⅲ期中期経営計画

◆教育のビジョン

- ①課題解決能力に加え、課題を見出す力と変化に対応できる力を備えた人材を養成する。
- ②教育・研究倫理など教育・研究を推進する上で必要なバランス感覚に優れ、持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成する。
- ③教えられるのではなく、自ら学び成長を確認できる教育を推進する。
- ④専門領域を超えた論理的思考力、数量的スキル、情報リテラシーの学びを推進する。
- ⑤社会の多様な価値観を受容できる寛容性と柔軟性を備えた人材の育成に努める。

◆研究のビジョン

- ①持続可能な社会の構築に貢献できる研究を推進する。
- ②専門領域のユニークな研究を推進し、研究成果の公表に努める。
- ③専門領域を超えた科学領域の教育研究組織を充実する。
- ④実践知に基づく大学院教育を推進する。
- ⑤多様な価値観からの研究を協働する。

◆貢献のビジョン

- ①社会連携による持続可能な社会の構築への貢献に努める。
- ②教育・研究をとおして培った実践知を公表し貢献する。
- ③課題発見力、課題解決力により故郷や地域社会へ貢献する。
- ④知識基盤社会におけるリスキリング等生涯学習に貢献する。
- ⑤社会の多様な価値観を受容できる教育機関として貢献する。

IV 重点的に取り組むべき課題

1. 特徴的・先進的事業の推進 大学の魅力の創出

- ・教育リソースによる生涯学習につながる e-Learning、DX を用いた特徴的授業システムを構築し展開する。
- ・自ら学ぶ主体的学修活動を支援するための情報を発信する。
- ・キャンパスの立地、自然環境を活かした教育研究内容を創出し、広報する。
- ・書道等、本学の他に類を見ない特色の更なる周知に努める。

2. SDGs 貢献施策の推進 社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】

- ・SDGs への取組など、社会が求める活動をホームページ上で発信する。
- ・行政との連携協力による地域住民との活動や調査研究の成果を地域に発信する。

3. 文理融合、理系教育の推進 学科等の改組・改編に取組、新たな資格、大学の魅力を創出

- ・理系を重視した文理融合の教育組織を目指す。
- ・改組・改編に必要な人材を養成・確保する。
- ・デジタルトランスフォーメーション(DX)による教育の質的転換に取り組む。

V ビジョン等への取組

1. 教育ビジョン

教育の充実【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】

(1) 主体的学びの環境整備のための措置 (カリキュラムの整備)

- ①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。

- ・学科・専攻等の特色、授業内容による教育効果に配慮した科目を設定し、推進する。
- ・科目の整備は3年間程度の年度計画で行い、不断に見直す。

(2) 主体的学びの推進のための措置（授業内容の改善）

①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。

①-1 デジタルアーカイブとその利活用

- ・学生のポートフォリオを促進し、知識・技術の自己認識（可視化）を図る。
- ・学修に関する資料等のアーカイブ化を図り、学内に公開する。
- ・生涯学習、学校教材や許諾を得た地域情報の発信を推進する。

①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び

- ・新たな知見を得るための新たな取り組みとして、学修の内容に積極的に取り入れる。
- ・データサイエンスを駆使した有用な情報の発信に努める。
- ・受講者の個別最適の授業法を探求し、学びの方法を広げていく。

①-3 ディプロマ・ポリシーの検討によるカリキュラム・ポリシーの見直し

- ・社会ニーズに対応するため、新たな手法による教授方法を推進する。
- ・教育DXの推進による教育の可視化を図り、教育力の向上を図る。
- ・ナンバリングを意識したモデルカリキュラムで学修の可視化を図る。

②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。

- ・地域と連携した実践的事業を展開、地域の方々との関わりを通して人間力、コミュニケーション力を高める。
- ・主体的学びを通して、言語表現力の充実を図る。

③新たな資格取得支援を推進する。

- ・社会ニーズに対応するために必要な資格に関する幅広い情報を提供し、資格取得のための支援策を充実する。

(3) 学修支援体制の拡充のための措置

①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。

- ・学修ポートフォリオ、ティーチングポートフォリオによる学修成果の可視化に努める。
- ・各種資格取得支援講座における学修達成度を可視化し、指導・学修に活用する。
- ・成果をホームページに公開し、学生の動機付けを高める。
- ・高等学校との連携状況を学修成果ポートフォリオとしてとらえ、推進する。
- ・学生が実施する保育・教育現場での指導力の評価を、自身・大学・実習先の連携で実施し、学生の教育実践力を高める。

- ・ G P A 数値の有効な活用法を追及する。
 - ②教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。
 - ・ 授業の e-Learning 化推進に資する。
 - ・ アーカイブ化した資料を活用するための組織を充実する。
 - ・ 利活用の方法を教授する。
 - ③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。
 - ・ 連携先企業を開拓し、中長期のインターンを実施する体制を整備する。
 - ・ インターンシップ、教育実習の効果的実施方法を不断に検証する。
 - ④生活基盤の安定を支援する。(奨学金制度の活用を推進)
 - ・ アドバイザー、学年主任が連携し、学業、生活状況を把握する。
 - ・ 関係者に適切な奨学金制度の紹介等を行う。
 - ・ 学生間の交流を活用した支援を取り入れる。
 - ⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。
 - ⑤-1 就職率の維持
 - ・ 大学での学修を活かした学生が納得できる就職活動を支援する。
 - ・ 社会実習をとおして、人間力やコミュニケーション力の向上を図る。
 - ・ 資格の取得を推奨し、関係する教育支援を実施する。
 - ・ 学生との面談を実施し、進路を見失わないよう指導を継続する。
 - ⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上
 - ・ 試験対策講座等の支援を充実する。
 - ・ 資格に関する授業を e-Learning 化し、いつでも学べる環境を支援する。
- (4) 学生の確保のための措置
- ①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。
 - ①-1 学科等の改組・改編
 - ・ 理系を重視した文理融合の教育組織を目指す。
 - ・ 改組・改編に必要な人材を養成・確保する。
 - ・ デジタルトランスフォーメーション(DX)による教育の質的転換に取り組む。
 - ①-2 社会から求められる新たな資格の取得
 - ・ 「情報」「データサイエンス」「文理融合教育」
 - ①-3 大学の魅力の創出
 - ・ 教育リソースによる生涯学習につながる e-Learning、DX を用いた特徴的授業システムを構築し展開する。
 - ・ 自ら学ぶ主体的学修活動を支援するための情報を発信する。
 - ・ 学生の持つ資質を活かし、より高次に学修できる個別最適の学習方法を探求する。
 - ②新たな取組により高校との連携強化を目指す。

- ・教職に携わる卒業生との連携を強化し、社会ニーズの把握と検証に努める。
- ・特徴的授業を学生・教員が一体的に高等学校と連携して実践交流を行う。
- ・高等学校との連携協定を推進する。

2. 研究ビジョン

研究の充実【教育を充実するための研究の推進】

(1) 研究成果の発信

①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。

- ・論文作成を推奨し、評価、表彰する。
- ・授業・卒業研究指導を行うためユニークな研究を探求し、論文を作成する。
- ・継続している研究について経時的変化を検証し、論文を作成する。
- ・研究所、研究センターと協力し論文作成を推進する。

②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。

- ・教育・研究等の公募情報を教職員で共有し、教育・研究を高度化するため外部資金の獲得を目指す。

③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。

- ・ユニークな取り組みを学内共有し、共同研究を推進する。
- ・教育リソースを活かした学部横断的研究活動を推進する。

④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。

- ・科学的・論理的思考のできる人材を育成するため研究力を高め、研究科に繋げる。
- ・フィールドリサーチを重視した研究を推進する。
- ・早期履修制度活用し研究を高度化する。
- ・社会人入学生と連携し、SDGs の社会ニーズに貢献できる技術の修得を図る。

3. 貢献ビジョン

社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】

(1) 地域コミュニティづくり

①特徴的取組の広報を展開する。(活動実績の可視化を図る。)

- ・大学が取り組む特徴的に教育・研究活動を、積極的に発信する。
- ・SDGs への取組など、社会が求める活動をホームページ上で発信する。
- ・行政との連携協力による地域住民との活動や調査研究の成果を地域に発信する。
- ・ユニークで先進的な取組について成果をマスメディアに向けて積極的に発信する。

②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。(マッチングを図る。)

- ・岐阜県の関係機関と協力し、大学に求められるニーズの発掘に努め貢献を継続する。
- ・関係する自治体・企業等との協議の場を設け、連携を深める。

(2) 生涯学習の環境づくり

①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。

- ・大学・研究所等が保有する教育リソースや知見を整理し e-Learning 化を進め一般社会人のリスキリングを支援する。
- ・健康・安全をキーワードとした社会ニーズの高い情報を地域に向けて発信する。
- ・情報環境を整備し、大学資料を広く学習できる体制の構築を目指す。

4. 組織・運営体制

健全経営と安定化【教育理念実現のための体制・基盤の維持・改革】

(1) 経営基盤の確保のための措置

①定員管理を適正に行う。

- ・広く社会ニーズを調査し、適正な入学定員を検証し学則改正等を行う。
- ・定員充足できるよう、学校訪問等学生募集に努める。
- ・高等学校等との連携を強化し、カリキュラムの内容や学生募集の内容を見直す。

②収益事業を推進する。

- ・岐阜女子大学ドローンカレッジを適正稼働する。
- ・公開講座等の内容を見直し、受講生を確保する

③外部資金の確保に努める。

- ・公募情報を共有し、申請に努める。
- ・科学研究費補助金に申請し、採択を目指す。

(2) ステークホルダーとの連携

①大学情報を効果的に発信する。

- ・リーフレット、チラシ、ホームページ等で大学の情報を配信する。
- ・魅力ある情報発信に努める。
- ・見やすい、わかりやすい情報発信に努める。

②学内外からの大学支援を依頼する。

- ・関係する企業等の連携を図るため、本学の情報を的確に発信し理解を得る。
- ・本学の活動とのマッチングを図り、連携を強化し支援を得る。

(3) 計画的基盤整備

①環境保全、人権、安全への配慮し計画的に整備する。

- ・SDGs を意識した事業を展開する。教養教育の一環として関連授業を開講する。
- ・地域の要請に応じ、関係する生涯学習や協同事業を実施する。

②学生・教職員のニーズに応える整備を行う。

- ・学生・教職員のニーズ把握を継続する。
- ・教育研究機器の更新に努める。

- ・学生アンケート調査を基に必要設備の導入等に努める。

(4) 学生の確保のための措置

- ①適正な定員管理(収容定員充足率 80%を目指す)に努める。
 - ・社会ニーズ、出口としての就職率や就職先などの調査を実施する。
 - ・調査結果に基づく教育組織の構築を目指す。
 - ・高等学校との連携の在り方について検討・実施する。
 - ・オープンキャンパス参加者、資料請求した学生への広報の在り方を検討・実施する。
 - ・退学者・休学者の減少に努める。
 - ・入学定員を見直す。

(5) 教職員の確保のための措置

- ①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。
 - ・広く人材を確保し学修の継続を図る。
 - ・研究力と教育力に優れた人材を確保する。
- ②計画的人事施策により組織の若返りを図る。
 - ・若手教員の研究支援を充実する。
 - ・定年制の的確な運用を図る。
 - ・実務家教員の適正配置等バランスの取れた教員組織を目指す。
- ③FD・SDを推進する。
 - ・教員相互・学生による授業評価を推進し、授業研究、評価、改善に資する。
 - ・教育力、研究力に優れた人材を評価する。
 - ・教育実習等の外部による学生の評価を分析し、教育力の向上に資する。
 - ・大学情報を共有する。
 - ・多様な機会を活用し、教職員の資質の向上に努める。

5. 点検評価

自己点検評価委員会と内部質保証推進会議の連携

(1) 内部質保証の継続のための措置

- ①教学マネジメントの自己点検評価を推進する。
 - ・学修成果の可視化を推進し、学生と共有する。
 - ・学生による授業評価を重視し、主体的学びや達成感を得られる授業に改善する。
 - ・定期的に自己点検評価・外部評価を実施する。
- ②教学IR体制を充実する。
 - ・IR室の組織を充実する。
 - ・関連組織との連携を強化し、IR資料の在り方を検討し充実を図る。